

評価結果概要表

作成日 平成 21 年 1 月 26 日

【評価実施概要】

事業所番号	秋田県知事指定第 0572108645号
法人名	バンドーケアポート株式会社
事業所名	グループホームバンドー ^{北政の里}
所在地	北秋田市下杉字上清水沢15-1 (電話) 0186-78-9226
評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉協議会
所在地	秋田市旭北栄町1-5
訪問調査日	平成21年12月11日

【情報提供票より】 (平成20年10月1日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 8 月 15 日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	8 人 (常勤 3 人 非常勤 5 人 常勤換算 5.2 人)

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	一部 2 階建ての ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	0 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	<input type="checkbox"/> 有 (円) <input checked="" type="checkbox"/> 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input type="checkbox"/> 有 (円) <input checked="" type="checkbox"/> 無	有りの場合 償却の有無	<input type="checkbox"/> 有 / <input type="checkbox"/> 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,000 円		

(4) 利用者の概要

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護 1	1 名	要介護 2	3 名		
要介護 3	4 名	要介護 4	1 名		
要介護 5	1 名	要支援 2	0 名		
年齢	平均 84.8 歳	最低 78 歳	最高 96 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	疋田外科内科医院、清水歯科医院
---------	-----------------

【外部評価で確認された事業所の特徴】

法人は10か所以上の事業所を運営し、法人理念に基づいてホームの理念を掲げており、費用面でも家賃や暖房費などの負担をなくし、利用の経済的負担の軽減に努めている。
 看護師を確保して24時間の対応を可能にしているほか、夜間は夜勤者と宿直者の2名体制をとり、夜間や緊急時の対応に関して安心・安全を確保している。
 職員の資質向上に積極的に取り組んでおり、管理者が講師となつての内部研修の実施や外部研修への参加のほか、利用者への言葉遣いや接し方なども自己チェックしながら質の向上に努めている。
 今後は、複数事業所を運営しているメリットを生かし、職員交流や勉強会などによる質の共有、向上に努めるとともに、地域全体の資質向上に向けても積極的に取り組み、牽引していくことを期待したい。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	利用者へのサービス提供について、評価・検証しながら目的や課題を明らかにし、職員間で共通認識を図りながらケアにあたる体制を構築し、職員の自信とスキルアップにつなげている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取組状況(関連項目:外部4)
	管理者が職員の意見を取り入れながら自己評価しているほか、独自の様式を作成してケアサービスや職員の姿勢などを5段階で評価するなど、業務改善に生かしている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組(関連項目:外部4, 5, 6)
	多くの参画が得られるよう日程調整のうえ開催しており、会議の議事録を本部で作成し、家族と委員に配布して共通認識を図っている。 今後は、自己評価や外部評価などから明らかになった課題等を議題とし、建設的な意見や提案が得られるよう有効的な会議の活用を期待したい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎月のたよりや面会時、電話などで情報提供に努め、苦情箱の設置など苦情相談体制を整備している。 今後は、利用者一人ひとりの詳細を知らせるため「たより」の充実と、定期的に面会に来れない方など利用者及び家族の潜在的な思いや意向を把握するための工夫を期待したい。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	周囲には民家1件と地元高校の宿舎という立地環境ではあるが、民家と宿舎からは理解を得て見守りや緊急災害時の協力体制を確保している。 今後は、地域交流の範囲を旧町単位に拡大し、地元社会福祉協議会や地域包括支援センター、老人クラブや婦人会など関係団体と連携しながら交流を図れるよう働きかけてほしい。

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営								
1. 理念と共有								
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	当社の企業理念「自尊心の充足を与え続ける」 職員の心得「何事も受け入れる寛容さ、無理といわない積極性」 当GHの理念「いつも笑顔でいきいきと」 理想論ではなく「志」を持つように努力している。			バンドーグループとして系列事業所には企業理念の共有化を図っており、「いつも笑顔でいきいきと」というホームの理念を掲げている。	○	現在の理念を生かしつつ、新たに地域密着型の事業所としての理念を再構築するため、職員の意見を取り入れながら検討することが求められる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「理念と心得」を掲げるだけでなく、業務に悩んだ時などのや道しるべにできるくらいの重みのある内容であることを自覚できるように学習会やカンファレンス等で再確認している。			管理者は理念の重要性を十分に認識しており、職員には日々の業務の中で理念の意識付けを徹底させている。 また、ホーム内の3か所に理念を掲示し、常に確認できるよう配慮している。	○	地域密着型としての理念の再構築に伴い、これまでと同様に管理者を中心にして理念の理解と共有に努めることを期待したい。
	3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	入居中の生活報告などで日々の内容を連絡し(御家族への連絡簿や運営推進委員会などで)、理念に基づいた雰囲気作り重視していることをお伝えしている。					
2. 地域との支えあい								
	4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近所に住宅が少なく決まった方々との接触しか期待できないが、夏祭りや他行事などご案内し参加していただいている。					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	介護度が上がり全員で出かけるとなると限りが出てきている中、近所にある「県立北政の杜」でのイベントには条件がそろえば可能な限り出かけて行っている。 町内の商店街の利用にも心がけている。			周囲には民家1件と地元高校の宿舎のみで、立地環境的に地域との交流には限界があるが、唯一ある民家と宿舎からの理解と協力は得られている。 また、地区担当民生委員が積極的に足を運んでくれるほか、旧町内の行事等へも参加している。	○	地域交流の範囲を旧町単位に拡大し、管理者の地元社会福祉協議会や地域包括支援センターとの人脈を生かして、地域の老人クラブや婦人会など関係団体との関わりを持てるよう積極的に働きかけることが望まれる。
	6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	「高齢者認知症を理解する」ことに関して、ホーム内での学習会資料をもとに他報告会などで発表したり、理解を広めていただけるように努めている。					
3. 理念を実践するための制度の理解と活用								
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	指摘いただいた内容に関しての可能な限りの改善に努め、「安心・安全・信頼」の継続を願っている。			職員の意見を取り入れながら自己評価を行い、課題を明らかにして改善につなげている。 また、ケアサービスや職員の姿勢など5段階での評価様式を独自で作成し、職員一人ひとりが自己チェックしながら質の確保に努めている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的な開催に努め、お一人でも多く御出席していただける内容で意義ある会の持ち方に努力している中、参加者皆様のお一人お一人のご意見を皆に伝え、今後の心がけに大切な内容として重視している。			一人でも多くの参画が得られるよう日程調整し、2か月に1回の頻度で開催しており、様々な意見や助言を得ている。 また、会議の協議事項を本部で議事録にまとめ、家族や委員に配布して共通認識を図っている。	○	地域との交流や新たな理念構築などを議題にし、建設的な意見や提案が得られるよう会議を有効に活用してほしい。

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価			
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	定期的な開催に努め、お一人でも多く御出席していただける内容で意義ある会の持ち方に努力している中、福祉課担当者のご参加は絶対的な条件としてしており、ご意見も頂いている。				管理者が行政に積極的に出向き、利用者や待機者に関する情報交換を行うなど日常的に相談できる関係を築いており、行政や社協からの利用相談も受けている。		
	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	GH内での定期的な学習会を積み、課題等もこなしながら研さんに努めている。 (学習会参加は常に全員である)						
	11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	関係者すべての自覚の向上に期待し、「虐待」の学習会の充実を図る。 少しの気になることも皆で意見交換・情報交換を心がけている。						
4. 理念を実践するための体制									
	12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	自宅訪問やGHにお越しいただき契約書の明示とともに担当者からのきちんとした説明がなされている。 又、お問い合わせの内容に関しても、管理者、必要であれば担当者との連絡が容易にできるようにしている。						
	13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常のご様子に十分注意し、気になる場合はこちらよりお声をかける。又投書boxの設置をし、いつでも記入できるように準備しておく。 運営推進会議の活用にも心がけている。						
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「お預かり金」の毎月の収支決算の報告時、行事のお誘いや連絡事などをお伝えしながら、特にご相談があるときはお電話での報告・ご相談をしている。				家族に対しては毎月たよりを送付し、面会時や電話などでも利用者の状況を報告している。 また、預かり金については本部から家族あてに詳細情報を送付し、家族からの確認も得るなど透明性の確保に努めている。	○	毎月のたよりでホーム全体の状況を伝えているが、今後は利用者一人ひとりの生活の様子を写真を添えて報告するなど、内容の充実に努めてほしい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進委員会への一人でも多くの御家族参加を期待してお誘いや、御面会時のお見送りなどの徹底に努め「御心配事がないか」伺う様にする。				ホーム内に苦情箱を設置し、苦情相談窓口など利用者及び家族の意向や苦情等を把握する体制を確保している。 また、定期的な面会時などに家族と話し合い、意向の把握に努めている。	○	定期的に面会に来れない方もいるため、利用者及び家族の潜在的な思いや意向を把握するための方法を工夫してほしい。
	16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のカンファレンス時：業務カンファレンスとケアカンファレンスを区別し行っている中、屈託なく皆が意見を出せるように進行し、良いことは即時検討し実施に至らせている。学習会後の課題提出や面接なども行っている。又、業務改善などに関することも、全員の意見が反映するようにしている。						

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
	17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	管理者（看護師）の常時連絡待機、行事の際の全員参加・緊急時の臨時出勤など全スタッフの協力体制は日常の検討の機会に話されている。					
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	現在職員の変化はないが、マニュアル作成をし業務での混乱を避けるとともに認知症に関する理解を知識として得てもらう事でご利用者に適切な対応をしていただくよう、学習会等の資料は誰が見ても理解できる内容に準備している。			職員の異動は最小限に抑え、利用者1名に対して職員2名の担当制にしており、1名が変わっても利用者が動揺しないよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援								
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	希望の研修への積極的に勤務体制の配慮し、研修内容を持ち帰り伝達研修を行っている。GH内での定期的な学習会の継続と充実を努めている。			職員は受講したい研修を申請し、本部の了解のもとに参加しているほか、常勤・パート職員を問わず全職員が参加し、2～3か月に1回は学習会を開催している。 また、ホーム内でも管理者が講師となり、認知症ケアの専門性を養うなどの研修を実施している。	○	職員一人ひとりの研修計画を作成し、職員の経験や職種、目標や希望に応じて段階的、計画的に研修参加できるように組織内での体制づくりを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人の他GH・施設関係者との交流の機会を持ち、情報交換や学びを受けサービス向上に尽力している。			管理者は系列事業所と毎月のリーダー会議を通じて交流している。 また、近隣の事業所との交流のほか、研修会の際の情報交換や電話での情報収集に努めている。	○	系列事業所以外との研修や交流を働きかけているが、日々の業務多忙から実施できていないため、日程調整や勤務調整など職員間で協議しながら研修の実現に努め、サービス向上につなげてほしい。
	21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	カンファレンスや学習会などで意見を自由に話せる機会を定期的に持ち、日常も情報の提供に心がけずすべての事に皆が参加できるように努めている。又、運営者訪問時は職員、管理者との対話の機会を心がけ行っている。					
	22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	日常の業務の視察・職員の苦悩に留意し、声掛けしている。又、努力している内容に関しての協力を惜しまず、楽しくやりがいのあるある職場作りに協力を惜しまないようにしている。					
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援								
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応								
	23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	「安心・安全・信頼」と「理念：いつも笑顔でいきいきと」をもとに、本人が生活や人間になれてくださるまで細心の配慮で対応する。					

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
	24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	契約時でのご相談内容をきちんと受け止め、十分な説明後同意をいただいている。又日常に関しても、面会・他連絡をいただいた際の懇切丁寧な対応に皆で心がけている。					
	25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	問題の提起がなされたら、御家族御本人の立場で皆で検討しケアカンファレンス・モニタリングなどで早期に経過を追っていくようにしている。					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している	御家族御本人から十分な個人情報を習得し、早期把握に努め、見守り経過中の情報よりプラン作成、皆で共有しながら少しずつ馴染みの生活を見つけていただけるように努力している。			管理者が事前に訪問し、センター方式のアセスメントシートを活用して利用者及び家族から情報収集をしており、健康状態や認知症の周辺症状、リスク等を確認し、本人の状況を理解したうえで利用につなげている。	○	利用にあたり、事前に事業所の見学を行い、必要に応じて試行的に通いや宿泊などの利用体験を行うなど、利用者及び家族の不安を払拭するための取り組みを工夫してほしい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援								
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	学習会を繰り返し「高齢者認知症」の方への「尊厳と接し方」を継続して学習している。馴れ合いだけでなく、「受身である」ご利用者様への心遣いを常に忘れてはならないと・・・努力している。			調理方法など利用者の培ってきた経験から学ぶことが多く、楽しく笑いながら生活することを願いながら、お互いに支え合う関係づくりに努めている。		
	28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	定期的なご連絡（運営推進委員会・行事へのお誘い）や、都度のご報告などで連携を取り、御家族の御希望や御心配に常に配慮している。					
	29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	御面会や御連絡など要請することなく、又その機会があった際は全力で応援している。					
	30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時の対応：地元での買い物や外出に心がけたり、行きつけの美容院の利用・かかりつけの病院への継続など、御本人の希望に合わせ行っている。					
	31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	強制することなく、ただし皆で家族的な係わりを継続していくための、日常生活での食事・ティタイム・おやつ・作業・行事などへの参加を利用しながら、達成感や皆で行うことの楽しみなど感じていただけるように心がけている。					
	32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	長期入院などで退居が決まっても、入院中のお見舞いや相談などを受けるように心がけ行っている。					

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価			
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント									
1. 一人ひとりの把握									
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に伝えたがっていることはないか心がけ、本人の希望的な内容がつかめた際は、実践できる内容が皆で確認し、なるべく本人の意向に合った内容で実践している。				意思表示する方が少ないため、利用者の生活歴や家族の情報などから興味のあることや思いを把握するよう努め、その日の状態に応じて活動を促し、利用者が退屈しないよう配慮している。		
	34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常の会話の中から個人情報として追加していく、御本人の生活に今までの生活スタイルが良い内容で生かされるように心がけている。						
	35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日のアセスメント記録の充実・「状態記録」として医療連携の一記録の追加をしながら毎日VS・認知症症状の状況・通院情報・作業情報など経過を残している。						
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し									
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	カンファレンスの充実・御家族とのコミュニケーションの機会を図り、希望や心配など即時検討内容として掲げプランに取り入れるように心がけている。				センター方式のアセスメントシートを一部活用し、毎月のカンファレンスで職員の意見を取り入れて計画を作成している。 また、利用者の生活状況や個人情報などを把握できるように個人ファイル化しており、カンファレンスで反映させている。	○	介護計画よりも実際のケアの方が具体的で充実しており、記録も丁寧に残しているため、作成段階から介護計画にリンクさせることを期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状況に応じては即時変更の必要あるものは対応・計画変更の場合はカンファレンス時期をまたずにモニタリングし対応の検討をしている。 毎月のカンファレンスで全員のケアカンファレンスを取り入れ情報のすべてを提供してもらい計画変更の参考になっている。				毎月のカンファレンスを基に、職員から見直しの必要性を確認しながら計画を修正しており、家族が内容を確認したうえで見直している。	○	具体的な短期目標を掲げ、その都度評価しながら細かい部分の見直しにつなげてほしい。 また、過去の介護計画なども個人ファイルとして保管し、一目で状況を把握できるよう工夫することが望まれる。
	38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	暮らしの状況把握と同様、アセスメント記録の充実を図り、「状態記録」として毎日のVS・認知症症状の状況・通院情報・作業情報など経過を残しており、カンファレンスの時の参考になっている。						
3. 多機能性を活かした柔軟な支援									
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	関連法人に有料老人ホームがあり、とうGHに看取り困難な方などは状況によって上記ホームに紹介することがある。管理者も看護師でケアマネ資格もあり、御家族からの介護相談や医療相談にも応ずることができる。				緊急の場合やホームでの生活継続が困難な場合など、一時的に系列事業所を利用したり、事業所を変更するなど連携しながら柔軟に対応している。 また、看護師を確保して24時間の医療連携体制を確保している。		

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働								
	40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関、医療機関等と協力しながら支援している	定期的な運営推進委員会へのご出席を依頼し、民生委員・福祉課担当者様方からも御意見をいただいている。 医療機関に関しても町内医院（2ヶ所）に嘱託医師として御考慮いただいている。（健康診断や予防接種…）					
	41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入院を期に急にADL低下した方がおり、医師との相談の結果医療保険適応での「訪問マッサージ」を使わせていただいている。 又、居宅へのご利用者様の情報提供をしている。					
	42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要に応じて訪問しご利用者の情報提供をし、問題点や今後の課題など情報交換している。					
18	43	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	適切な専門医師との継続した医療の提供に健闘している。適切な状態報告をし管理のアドバイスをいただけるように心がけている。				利用者の受診予定表を月毎に作成し、受診しやすい環境を整えているほか、職員が付き添いのうえ通院し、必要に応じて代理受診もしている。 また、看護師を確保して医療面での不安を取り除き、健康面に関する記録を徹底し、利用者の健康管理を適切に行っている。	
	44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症の方ということでの配慮なども頂け、スムーズな医療を受けることができている。					
	45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	自分の持っているすべての知識と技術を持って係わり、必要に合わせ相談できる条件が構築されている。					
	46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	受け入れについての情報を早めに提供し、入院により臥床がちとなることより、ADLの低下が危惧されるため管理可能となった際は一日も早く退院できるように連携と信頼をいただいている。					
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在は対象者がおらず直接的な動きはしていないが、今後考えられる場面が出てきた際は可能な限りのお願いをし連携していただくようお願いしていくつもりである。				重度化した場合や看取りに関する指針を定めており、看取りを望む場合には家族や嘱託医に相談のうえ、連携・協力してもらおう体制を確保している。	

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	今年度に入り急に介護度が4・5になったの方がおり、スタッフも今までにない医療的介護を要求され頑張りご利用者様の生活レベルのアップをしてきた経緯がある。今後はその時の知識と技術を十分に活かし、可能な限り指示のもと務めていけると自負している。					
	49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、本人及び家族に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	御家族との事前の相談を何回も行き、十分納得いただいたことを確認してから対応に心がけている。実際の手続き・今後の手順・転居施設の案内など御家族のダメージ減少に努め、ご利用者様に関しては御家族含め納得いかれるまでの説明に心がけている。					
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援								
1. その人らしい暮らしの支援								
(1)一人ひとりの尊重								
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	「尊厳」を掲げ、馴れ合いになりすぎて心配されるタブーな言葉遣いや対応についてを学習会で取り入れたり、又カンファレンスでも・・・と機会あるたびに心がけが継続するように努めている。			馴れ合いによる言葉遣いがいい職員が日々の業務の中で自己チェックし、排泄時の失敗などは他利用者の目にふれないよう注意しながら応じている。 また、個人ファイルは事務所内で保管し、個人情報保護に関する取り扱いも明確にしている。	○	トイレの扉をアコーディオンカーテンで仕切っているが、排泄介助時にカーテンを閉めていない場面がみられるため、利用者のプライバシーを確保するための対応を徹底してほしい。
	51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を「尊厳の保持」に配慮して行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	御利用者様一人一人の個性を尊重し、相手に合わせた対応の仕方（ゆっくり話す・時間を置きながら話す・しぐさ等より）に心がけ、ご希望が自然に表出できるように努めている。					
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活スタイル（食事・ティタイム・おやつ・入浴・ケアなど）への歩調を大切にしながら、その中で自分の時間や過ごし方の自由は見守りしながら行っている。			食事や入浴の時間など利用者の意向やペースを尊重して柔軟に対応しており、必要に応じてメニューを提示して選択してもらっている。 また、のど自慢を見たり、体操や室内での運動、お茶やおやつ時間も設けているほか、車イスの方がベッド上でリハビリするなど個別に支援している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援								
	53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	整容に関しての心遣いは女性として当然考慮している。顔そり・理髪・爪切り等スタッフがいたり、又年間行事前の「訪問美容師」によるカットや行きつけの美容師さんへのパーマなどは希望に合わせて行っている。通院時はスタッフとともに衣類の選択など楽しみながら行っている。					

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	家事手伝い（調理・食器洗い・食器拭き）は可能な方々交互に行っていただき、昼食はも誤嚥防止や介助内容に合わせスタッフの位置に配慮しながら皆でいただくようにしている。 食事時のトラブル防止のためスタッフが二人以上スタンバイしないと食事開始しないようにしている。			献立は利用者の嗜好に配慮しながら職員が作成し、週2回は利用者が好む「うどん」を取り入れており、肉の嫌いな方には魚を出すなど個別に対応している。 また、職員は弁当を持参して同じテーブルで食べており、調理の準備や片付けなどは利用者と共にやっている。		
	55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	現在嗜好品で特にご要望がなく配慮していることはありません。 食べたい物…に関しては、会話に「食べたいものは～」とスタッフの声かけがあり、ご利用者様のご希望が聞かれています。					
	56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるように「尊厳の保持」に配慮して支援している	失禁の減少を図ることに努めている。その方の排泄パターンをつかみ、必要に合わせ時間誘導のプランを立て実施。同時に尿意・便意を感じることの大切さも考え、必要以上に声掛けはしないことも心掛けている。3日以上のご宿便対応は定期的に行っている。					
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しむように支援している	週2回の入浴日、必要に合わせ臨時追加など、曜日・時間は決められ誘導しているが、どうしても本人が拒否したり、予定でないのに入りたいなどというときは考慮している。事前のVSチェックと体調を伺ってから、又10時の水分補給後の実施となっている。			週2回は定期的に入浴し、利用者の要望に応じて回数を増やすなど柔軟に対応している。 また、体調がすぐれない場合や入浴を拒む場合には、足浴や陰部浴のほか清拭などで清潔の保持に努めている。		
	58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	退屈行動ではなく休息を要望して居室に戻れることはお昼寝を含め進めている。 又、声をかけないとテーブルに着いたままいる方もおり、フローア畳やソファなどでのくつろぎを促し、時にはスタッフの休暇時間につきあい添寝してくれている利用者様もいる。					
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援								
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	「皆で楽しめることを」もつとくに、介護度の重い方々が留守番することにならないような無理のない行事の設定に心がけ、又日常も午前中の体操や午後からのアクティビティに音楽・運動・昔遊びなど取り入れている。			利用者のできることを見極め、調理の手伝いやモップがけ、洗濯・おしぼりたたみ、食事のあいさつやカレンダーめくりのほか、庭掃除や山菜の皮むき、草取りなどの役割を担っている。 また、誕生会で寿司を食べたり、庭でのお茶会や買い物など、利用者の楽しみ事も支援している。		
	60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全員のお金の管理は管理者が行っているが、必要と希望される物の購入は行い、ほしいものがあると相談された時は本当に必要かきちんと個人と話し合い決めている。					

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	戸外行事への全員参加・通院時の付き添い・買い物や用事で管理者が出かける時の同伴・お天気に合わせ敷地内の山菜などの探索・畑作り・庭掃除など…声がけしながら御一緒する。			通院時にドライブを兼ねて外出しており、年間行事として花見や夏祭り、あじさい見学のほか、イベントなどにも参加している。 また、買い物やホーム周辺の散歩など、日常的に外出を支援している。	○	通院時など外出の機会が限られるため、天気の良い日など気軽に外へ出られるよう機会づくりと場所の工夫が望まれる。
	62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	面会にいらした御主人とのドライブや通院帰りの買い物やドライブ…イベント（屋外歌謡ショーなど）にお天気や体調が問題なければお連れしている。					
	63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に合わせ対応できる準備はあるが要望があまりなく、御家族からの事業所へのお電話の際などは積極的に御本人ともお話ししていただいている。					
	64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	御面会者には心ばかりのおもてなしですが「お茶・お菓子」など出させていただき、会話（合わない情報は言わない）には注意しながら感謝の念は伝えるようにしている。					
(4) 安心と安全を支える支援								
	65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関しては絶対的禁止をしている。					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている	間違っ外に出てしまう危険がある場合、それが又戻れなくなる心配がある場合のみ寺領所入り口のカギは使用している。居室へのカギは使用していない。押し入れのカギは個人管理で使用している方もいる。（盗まれ不安より）			日中は玄関に鍵をかけず、センサーを取り付けて利用者の外出を把握しており、見守りや付き添いなどで利用者の安全確保に努めている。 また、近隣の民家や高校宿舎に呼びかけ、利用者の見守りに関して理解と協力が得られている。		
	67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	一人一人のリスクを十分把握し、全員のすべての行動に見守りと援助を行う。特に転倒防止についてはホーム内の廊下・居室すべてに歩行を妨げるものはないか、又その排除。 ご利用者様の行動が気になっても、危険が伴わない場合は中断させずやさしく見守り結果を見る。					

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
	68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ご利用者様の所持品についてはすべて居室に管理しており、危険を感じずる物品については現在問題なし。					
	69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人一人のリスクを十分把握し、全員のすべての行動に見守りと援助を行う。特に転倒防止についてはホーム内の廊下・居室すべてに歩行を妨げるものはないか、その排除。補助具の完全使用に見守り。 食事時はスタッフ2名以上で見守り、救急時の対応の器具使用手順の熟知・火災訓練の月二回実施など。					
	70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行っている	急変/事故発生時は即管理者への第一報をし、指示を仰ぎ、貼り出しているマニュアルに沿って救急車依頼などを行うことで申し合わせている。					
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練の実践：年2回の広域訓練とホーム内で各自月2回の自主的訓練の実施とチェック方式で成果記録の継続を行っている。 消防署・消火器担当事業所・近所（寮のある高校・ご近所さん）にお願いしている。			防災計画を作成し、消防署の指導を受けながら非難訓練を実施しており、近隣の民家にも緊急時の協力を依頼している。 また、非常時の食料を準備して災害時に備えている。	○	近隣住民や高校宿舎の理解が得られていることから、夜間を想定した訓練への参加や避難誘導など、緊急災害時における役割を明確にしておくことが求められる。
	72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	十分な注意を払っても起こりうる事柄（転倒・転落・他外傷など）に了解をいただき、心配の余り行動を抑制してしまうことで起こりうるADLの低下や認知症の悪化の方が本人にとって好ましくないことに機会あるたびにお話しし了解していただいている。					
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援								
	73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	常に顔色・表情・動作などに注意し、変化に気づいたら皆で情報の交換をし、管理者の指示のもと受診の必要有無・安静や保温の必要性など検討し実施している。					
	74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療連携と共に「個人情報」と「健康管理」に記録を分け、医療施設・服薬の内容など一目で確認できるようにしている。 又、薬効果・副作用については「今日の治療薬」雑誌を準備し即確認できるようにしている。					
	75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	宿便傾向にある方の主治医相談による下剤の処方を中心に、水分・果物・野菜などの摂取に心がけ、腹部マッサージ・散歩など心がけている。 3日以上宿便には即対応するようにしている。					

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	3食後の入れ歯を外した個々に合わせたケアの援助をしている。 部分入れ歯の取り扱いには十分気をつけ、唇や口腔内を傷つけないように心がけている。 (入れ歯洗浄剤を常用している)					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月一回の体重測定を行い体重の増減チェックする。 一日1200~1300kCalを目安に、高脂血症・糖尿病利用者様へのcal制限も心掛け行っている。 食事・服薬のための保水・ティタイム・おやつ時の水分・入浴後のお茶・他自由に・・・と水分補給も十分行っている。(尿量・性状の観察も行っている)			ホームの栄養士が1週間のカロリー計算を行い、1日の水分量や食事摂取量も個別に記録し、献立にも指導・助言を得ながら栄養バランスを管理している。		
	78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザ予防注射は主治医指示のもと全員対象としている。伝染性皮肤病疾患の有無には留意し水虫の方についても入浴・足浴を最後にしたり、又、カミソリや爪切りの使いまわしはしないように、使用した物(おしぼり含む)の強酸性水消毒など行っている。他毎日のキッチン・まな板のハイター消毒・手洗い厳守など。訪問者および帰設時の手指消毒液の設置と実践強化。					
	79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	2~3日分づつのメニューに沿った食材の買い出し、冷蔵庫・キッチン・調理用具の管理としては毎日運番業務者が清掃・片づけを行っている。 ペーパータオルの全面活用を行っている。					
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり								
(1)居心地のよい環境づくり								
	80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	花壇の整理・玄関前の清掃・玄関先の装飾と履物などの整理に心がけ、時期折々(七夕・GH祭り・クリスマス・正月など)の行事や季節に沿った装飾や置物に心がけている。					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	すべての設備・調度品は一般家庭に使用されるようなものを目指している。 ただし、安全を目的にプライバシー保護のために心がけて使用するものも(トイレの acordeonカーテン...)あり、使用時に違和感を与えないように心がけている。			夏場は玄関を開放し、庭先にベンチを置き、スロープや手すりを設置して利用者が自由に行動できるよう工夫している。 また、ホーム内は炭で臭いを消し、食堂は明るく、観葉植物を置くなどして落ち着ける雰囲気づくりに努めている。		

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
	82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロー内に畳・ソファ・テレビ・を設置し退屈しないように誘導したり・・自室への自由な出入りに必要以上に心配した声かけをないようにしている。 会話のきっかけになるような情報を提供し皆で関心を持ってくれるように努力している。					
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全より居室への家具家財の準備は最小限となっており、必要に合わせ押し入れ利用で収納するようになっている。又御家族の写真や御主人の遺影など置き・カレンダーや時計など個人のお部屋ムード作りには気遣いしている。			居室入口は利用者に合わせて工夫し、行事の写真や名札、人形を飾るなど個性を尊重している。 また、居室にはテレビや遺影、藤イスなどを持ち込み、比較的広いため家族の宿泊にも寝具類を準備して対応している。		
	84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	寒暖の差に注意し、季節に合わせた対応（ヒーターやクーラー）には心がけている。 床下の備長炭が活用されるように空気穴の掃除に気遣い、消臭剤や防臭剤も気遣いながら使用している。 窓の開閉も喚起に注意しながら活用している。					
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり								
	85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・トイレ・浴室などの手すりの設置と活用の勧め。 洗面所工夫：蛇口の位置や洗面台の高さ・洗面具の自由な使用場所の工夫など行っている。 テーブル付きの回転イスで方向の移動が簡単であり立ち上がりも良好である。					
	86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	ホーム内での混乱はないが、個人的にタオルや衣類の模様に執着しシミと誤って取り除こうとしたりする方には、タオルの裏使いや気になる衣類は使わないようにするなどの配慮をしている。					
	87	○建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関先にはベンチを置き、皆で風あたりや日向ぼっこをしたり、裏玄関には干しざおを置いているので、洗濯ものをかけたりする作業に出やすくなっている。又花壇やミニ畑も作り草取りや収穫など楽しんでいる。（ただし、いづれの出入口も階段があり昇降には十分な注意が必要である）					

※ は、重点項目。

項目		自己評価	
		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
V. サービスの成果に関する項目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

個人的にで申し訳ありませんが、就業8カ月目にしようやく日常の業務と管理者としての責務が見えてきたのを実感している昨今です。「看護」が土台にあるから「良い介護」が目指せると自負しながらも「認知症の方を理解する」ことの知識不足を自覚し、実務者研修での内容を共有する意味で行ったGH内での学習会が起因となり、とにかくみんなで「認知症の理解を深める」ことに努めようと学習会を重ね、日々の情報交換での意義(理論に基づいた)ある話し合いなど繰り返してきています。

リーダーが変わったばかりという新鮮なタイミングだったからこそ、スタッフも戸惑いながらも流れるように学習や検討内容に関しても真剣さも増してきていると感謝しています。

「安心な生活を提供し、尊厳を持つ」と掲げても、やはり「完全に受け身」である利用者様のQOL向上は、やはり介護スタッフの力量が再配するのが現実であり、スタッフが学習意欲と業務に対しての個々の責任感を自覚し、なにより楽しい職場作りに心がけてくれていることは今後にとっても大きな収穫で、ともすれば馴れ合い的になりがちな業務ですが、今後も「学習意欲・就業意欲の向上」を掲げ、スタッフ全員で認知症介護者として成長していけるように学習の場を継続していきたいと考えています。

自分自身でもそうでしたが、臨床看護師として介護の要する方に対応してきた経験はありながら、いざ直接携わると未知の部分も多く戸惑ったものでした。今回秋田県看護協会・北秋田地区支部内でおこなう「研究発表会」に介護に関して関心を持っていただけ、看護も頑張っているが介護も頑張っているという意味を持ち、報告する予定です。

当GHの学習スタイルを御理解いただきたく提出しました。(資料は入れていません)

職場の理念も、額に入った名言として空気のような存在であったが、研修でその価値を学び伝達することで、事柄に悩んだときの道しるべとしてスタッフ間で活躍している。

「いつも笑顔でいきいきと」を大切に、今後も協力し良い職場のムード作りに皆で務めていきたいと声を合わせています。

私の就業と共に当GHに初めて「犬」の参加が許可されました。我が家の愛犬ですが、毛が抜けず・吠えない・咬まない・粗相しない・・・を条件で時々訪問しています。利用者様の反応も良く、退屈を紛らわせてくれています。